

事務事業名	こどもロマン・ロードウォーク開催	所管課	生涯学習課
-------	------------------	-----	-------

**【予算科目】**

款：教育費 項：社会教育費 目：社会振興費 細目：青少年教育費  
 事業：こどもロマン・ロードウォーク開催  
 細事業：こどもロマン・ロードウォーク開催

**【施策体系】**

新プラン計画事業  
 未来力あふれる社会／未来を担う人づくり／青少年の健全育成

**【事業の目的】**

広域市町村連携によるウォークを通して、自然を畏敬し、地域の歴史を学び、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを語ることができる青少年を育成する。また、他人と協調・協力し、他人を思いやる心、感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康な体と心を培う。

**【事業の概要】**

県内小学校5年生から中学校3年生を対象とし、県内3コースで3泊4日の日程で各市町村の歴史・文化の学習、自然体験、産業体験、交流会等を実施する。

**【執行計画の有無】** 有

「平成14年度こどもロマン・ロードウォーク開催事業要領」により実施

**【予算の状況】**

(単位 千円)

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備考
5,726	0	5,726	3,394	2,332	59.3	決算額は監査調書上の数字
			4,412	1,314	77.1	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			3,394	2,332	59.3	決算額は監査で確認した結果の数字

(節別内訳)

(単位 千円)

節	最終予算額	決算額A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
報償費	1,099	866	233	570	529	866	233
旅費	1,701	840	861	1,166	535	840	861
需用費	1,651	732	919	1,651	0	732	919
役務費	355	116	239	355	0	116	239
使用料及び賃借料	920	840	80	670	250	840	80
計	5,726	3,394	2,332	4,412	1,314	3,394	2,332

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 報償費233千円、旅費861千円、需用費919千円、役務費239千円

・不用額が生じた理由

旅 費：極力公用車を利用して経費の節減に努めた。  
 報償費：各実施コースでの協力スタッフの数が、計画人員より少なくなった。  
 需用費：昨年度参加希望者が多かったので、ポスター作成を中止した。  
 役務費：参加募集のチラシ等の配付を各市町村教育委員会に依頼した。

・減額補正しなかった理由

不用額として整理することにした。

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

**【監査の概要】**

1 事務事業を実施するに至った背景

平成11年6月、国の生涯学習審議会答申「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ」において、子ども達への地域での豊かな体験が不可欠であると指摘された。

また、県民の生活圏の広域化に伴い、複数市町村が連携したモデル事業の実施の必要性が生じてきた。

2 事業開始年度から平成 14 年度までの実施状況

平成 13 年度

事業開始

平成 13 年 8 月 8 日から 3 泊 4 日で実施した。

参加申込者 635 人

県内 3 コース (96 人参加)

[東青・下北コース、西北・中南コース、上北・三八コース]

平成 14 年度

平成 14 年 8 月 8 日から 3 泊 4 日で実施した。

参加申込者 570 人

参加者負担金 8,000 円 (主として食事代金)

各市町村を横断しながら、自然、文化、歴史等に接した。

宿泊は原則公民館等に寝袋で泊る。

[南部コース] 33 人参加 八戸市及び周辺町村の 4 市町村

行事日程

初日 青森市 (出発式) → 小川原湖しじみ貝採り → 小川原湖青年の家宿泊 (交流会)

2 日 八戸市根城史跡・博物館 → 種差キャンプ場 → 蕪島 → 三八公民館宿泊 (せんべい汁調理)

3 日 タブコブ創遊村 → 田子神楽 → 田子温泉 → 田子町中央公民館宿泊 (感想文)

4 日 銚子大滝 → 奥入瀬溪流 → 青森市解散

[津軽コース] 31 人参加 弘前市周辺を中心に 7 市町村 行事日程省略

[下北コース] 33 人参加 むつ市及び隣接町村の 5 市町村 行事日程省略

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成 15 年 9 月 3 日現在)

区分	指標名 (指標式)			H13	H14	目標年度 (H18)
	成果 指標	指標 1		参加者延べ人数	目標	90
実績			96		193	291
活動量 指標	指標 2	実施地区延べ数	目標	3	6	9
			実績	3	6	9
	指標 3	実施対象市町村延べ数	目標	15	30	47
			実績	15	31	47
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

4 予算の執行状況と事業目的との関係

執行率がやや低いが、当該事業のために執行されている。

**【問題点等】**

1 予算執行上の問題点

(1) 財政課提出「平成 14 年度決算統計節別集計表」の決算額と一致していない。

(2) 事業に係る経費の支払は、役務費を除いて 9 月末日に完了しているのに、減額補正をすべきところ、減額補正を行っていない。

2 事務事業執行上の意見等

参加者のこども及び父母のアンケート調査を実施して、事業の成果及び課題について検証していることから、これらを反映させたより適切な成果指標を、設定するように努める必要がある。

また、その他の指標についても、一部設定されていないものがあるので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。

<b>事務事業名</b>	ハバロフスク地方スポーツ親善交流事業	<b>所管課</b>	スポーツ健康課
--------------	--------------------	------------	---------

**【予算科目】**

款：教育費 項：保健体育費 目：体育振興費 細目：スポーツ費  
 事業：ハバロフスク地方スポーツ親善交流事業  
 細事業：ハバロフスク地方スポーツ親善交流事業

**【施策体系】**

新プラン計画事業  
 彩りある美しい社会／スポーツの振興／スポーツ活動の推進／スポーツ交流の推進

**【事業の目的】**

本県と友好提携を結んでいるロシア連邦ハバロフスク地方とスポーツを通じた相互交流を行い、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際的視野に立って活躍できる人材を育成する。

**【事業の概要】**

ハバロフスク地方より本県へ受入して柔道競技の交流を行う。

- ① 交流種目 柔道
- ② 受入人員 18名
- ③ 受入期間 平成14年8月7日～11日
- ④ 交流内容 柔道競技の技術指導、交流試合

**【執行計画の有無】** 有

「2002年のハバロフスク地方と青森県との交流事業計画に関する合意書」に基づき実施

**【予算の状況】**

(単位 千円)

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備 考
2,154	0	2,154	2,314	△160	107.4	決算額は監査調書上の数字
			2,017	137	93.6	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			2,314	△160	107.4	決算額は監査で確認した結果の数字

(節別内訳)

(単位 千円)

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
報償費	410	179	231	295	115	179	231
旅費	0	257	△257	0	0	257	△257
食糧費	160	160	0	138	22	160	0
その他需用費	285	241	44	285	0	241	44
役務費	113	99	14	113	0	99	14
委託料	784	881	△97	784	0	881	△97
使用料及び賃借料	402	497	△95	402	0	497	△95
計	2,154	2,314	△160	2,017	137	2,314	△160

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

＜補正をしている場合はその理由＞ 2月補正（旅費△784千円、委託料784千円）  
 事業費の精査に伴う節間調整のため。

＜一つの節で10万円以上の不用額＞ 報償費231千円

・不用額が生じた理由

ハバロフスク地方の交流生の感想文等を報告書に掲載できなくなり、翻訳のための謝金が不用になったため。

・減額補正しなかった理由

報告書作成時期が、最終補正終了後になったため。

＜一つの節で10万円以上の超過額＞ 旅費257千円

・超過額が生じた理由

旅費を全額委託料に振り替えたが、当事業での旅費の執行分が生じたため。

・増額補正しなかった理由

他事業の経費で対応したため。

【監査の概要】

1 事務事業を実施するに至った背景

平成2年12月に「ソ連との交流に関する基本協定」を策定し、平成4年8月27日に友好協定を締結してハバロフスク地方との交流を図ることとなった。

2 過去5年間（平成10年度から平成14年度）の実施状況

当該事業は平成7年度から実施しており、平成12年度までは（財）青森県体育協会への補助事業として実施してきたが、平成13年度以降は県直営方式としている。平成10年度以降の実施状況は次のとおりである。

平成10年度 社会人サッカーチーム18人を派遣。

平成11年度 社会人サッカーチーム18人を受入。

平成12年度 社会人サッカーチーム19人を派遣。

平成13年度 高校生柔道チーム19人を派遣。

平成14年度 高校生柔道チーム18人を受入。

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成15年7月3日現在)

区分	指標名 (指標式)			H11	H12	H13	H14	目標年度 (H )
成果 指標	指標1	派遣・受け入れ人数 (人)	目標	18	19	19	18	—
			実績	18	19	19	18	
活動量 指標	—	—	目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	—	
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	—	

4 予算の執行状況と事業目的との関係

当該事業に係る夕食代について、食糧費で執行すべきところ、その他需用費で執行したことによる支出科目の誤りがあるものの、概ね目的どおりの執行となっている。

【問題点等】

1 予算執行上の問題点

(1) 財政課提出「平成14年度決算統計節別集計表」の決算額と一致していない。

(2) 2月補正において、事業費の節間調整のため、旅費を減額し、委託料を、増額補正したにもかかわらず、当該事業に要した旅費及び委託料の不足分について、他事業の経費から支出している。また、使用料及び賃借料においても、一部他事業の経費から支出している。

2 事務事業執行上の意見等

事務事業評価における成果指標として、派遣・受け入れ人数を、指標として設定しているが、事業の目的に沿ったより適切な成果指標を、設定するように努める必要がある。

また、その他の指標についても、一部設定されていないものがあるので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。

<b>事務事業名</b>	スポーツ少年団国際相互交流事業	<b>所管課</b>	スポーツ健康課
--------------	-----------------	------------	---------

**【予算科目】**

款：教育費 項：保健体育費 目：体育振興費 細目：スポーツ費  
 事業：スポーツ少年団国際相互交流事業  
 細事業：スポーツ少年団国際相互交流事業

**【施策体系】**

その他行政事務（サービス）経費

**【事業の目的】**

本県と友好提携を結んでいるロシア連邦ハバロフスク地方の青少年と本県スポーツ少年団による国際相互交流を行い、友好親善と相互理解を深める。

**【事業の概要】**

ハバロフスク地方の青少年〔スポーツクラブ所属〕を受け入れて、本県スポーツ少年団員との交流行事を実施した。

**【執行計画の有無】** 有

「平成14年度スポーツ少年団国際相互交流事業費補助金交付要綱」により実施

**【予算の状況】**

(単位 千円)

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備 考
3,000	0	3,000	3,000	0	100	決算額は監査調書上の数字
			3,000	0	100	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			3,000	0	100	決算額は監査で確認した結果の数字

交付先は（財）青森県体育協会

(節別内訳)

(単位 千円)

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
負担金、補助及び交付金	3,000	3,000	0	3,000	0	3,000	0
計	3,000	3,000	0	3,000	0	3,000	0

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 該当なし

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

**【監査の概要】**

1 事務事業を実施するに至った背景

平成4年8月に〔青森県とハバロフスク地方（ロシア）との友好的なパートナーシップに関する協定〕を締結した。

平成7年にロシア（ハバロフスク地方内務省）より来年の夏休みに本県の小・中学生を招待したいとの申し出があり、平成8年度より当面派遣のみを行う事業として開始した。

2 事業開始年度から平成14年度までの実施状況

(1) 平成8年度から12年度

〔スポーツ少年団国際交流事業〕として、青少年スポーツの中で組織化された団体を対象として、市町村スポーツ少年団の選抜団員を派遣してきた。

〔本県スポーツ少年団は510団となっている〕

(2) 平成13年度

相互交流へ発展させることに双方が合意し、〔スポーツ少年団国際相互交流事業〕として再出発し、この年は本県スポーツ少年団を派遣した。

(3) 平成 14 年度

ハバロフスクの青少年〔(ディナモ) スポーツクラブ所属〕を、初めて受け入れ、〔ハバロフスク 地方青少年国際交流事業〕実施計画書どおり事業を実施した。

事業内容

ロシア側 18 人、日本側 74 人が参加した。

平成 14 年 7 月 28 日から 8 月 1 日 [会場 岩木青少年スポーツセンター]

平成 14 年 8 月 1 日から 8 月 4 日 [会場 夜越山公園]

28 日 青森空港到着 岩木町移動 歓迎夕食会 岩木町夏祭り参加

29 日 岩木山登山、白神ビジターセンター見学、たこ絵創作

30 日 スポーツ交流 [パークゴルフ、創作ダンス、キンボール]

31 日 ディスカッション 弘前市内観光 こぎん刺し創作

1 日 平内町移動 浅虫花火見学

2 日 大和山見学 ショッピング ねぶた体験

3 日 水産増殖センター見学 記念樹植栽 さよなら夕食会

4 日 帰国

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成 15 年 7 月 3 日現在)

区分	指標名 (指標式)			H11	H12	H13	H14	目標年度 (H )
成果 指標	指標 1		目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	—	—
活動量 指標	指標 2	派遣延べ人数	目標	—	—	—	—	—
			実績	39	57	75	—	—
	指標 3	受け入れ延べ人数	目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	18	—
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	—	—

4 予算の執行状況と事業目的との関係

当該事業のために執行されている。

**【問題点等】**

1 予算執行上の問題点

補助金の確定を行うため、実績報告書に支出済額に係る証拠書類（領収書等の写し）を、添付することも検討する必要がある。

2 事務事業執行上の意見等

(1) 評価指標の一部が設定されていないので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。

(2) 事業目的は、スポーツ活動を中心とした様々な交流活動を目標としているが、事業内容としてはスポーツ交流行事が少ないので、検討する必要がある。

<b>事務事業名</b>	文化財副読本作成事業	<b>所管課</b>	文化財保護課
--------------	------------	------------	--------

**【予算科目】**

款：教育費 項：社会教育費 目：文化財保護費 細目：文化財管理費  
 事業：文化財副読本作成事業  
 細事業：文化財副読本作成事業

**【施策体系】**

その他行政事務(サービス)経費

**【事業の目的】**

貴重な県民共有の財産である文化財を保護していくためには、幼い頃から郷土の歴史や文化等についての理解を深めることが重要であることから、子供達が理解しやすく、幅広く活用できる副読本を作成するものである。

**【事業の概要】**

本県の歴史と文化財をわかりやすく解説した文化財副読本を作成し配付する。  
 3月下旬に県内の各小学校へ発送し、翌年度の小学6年生全員に配付する。同時に教員用の指導の手引きを各小学校に3部配付して、主に社会科の授業での活用を図る。

**【執行計画の有無】** 無

(予算要求時の資料に基づき実施)

**【予算の状況】**

(単位 千円)

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備考
3,467	0	3,467	3,521	△54	101.6	決算額は監査調書上の数字
			3,418	49	98.6	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			3,521	△54	101.6	決算額は監査で確認した結果の数字

(節別内訳)

(単位 千円)

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
報償費	36	29	7	26	10	29	7
旅費	68	26	42	68	0	26	42
需用費	6	0	6	6	0	0	6
役務費	39	0	39	0	39	0	39
委託料	3,318	3,466	△148	3,318	0	3,466	△148
計	3,467	3,521	△54	3,418	49	3,521	△54

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 該当なし

<一つの節で10万円以上の超過額> 委託料148千円

・超過額が生じた理由

活用状況がおおむね判断できる12月下旬に各学校へアンケート調査を実施し、その結果を踏まえて2月に編集委員会を実施し、翌年度配付の改訂版を作成しているが、平成14年度分については改訂の内容が多く、各ページの入れ替え、写真の変更等が多かったため、予算額を上回った。

・増額補正しなかった理由

2月下旬に編集委員会を開催し、内容を検討してから委託契約をしたことにより、2月補正に間に合わなかったため。

**【監査の概要】**

1 事務事業を実施するに至った背景

平成10年度に文化観光立県を宣言し、教育現場において児童・生徒に対して郷土の歴史・文化の理解を深めさせることを行う必要性があるため。

2 事業開始年度から平成 14 年度までの実施状況

平成 10 年度

庁内連絡会議、編集委員会議

平成 11～14 年度

編集委員会の開催、文化財副読本及び指導の手引きの作成、配付

14 年度の実施状況

編集委員会 H15. 2. 26

文化財副読本及び指導の手引き作成、発送委託 H15. 3. 7～H15. 3. 28

(印刷製本部数 副読本 16,900 部、指導の手引き 1,500 部)

配付先 県内各小学校、各市町村教育委員会、各教育事務所、教育庁出先機関

なお、当該事業は平成 15 年度で終了予定である。

3 当該事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成 15 年 9 月 5 日現在)

区分	指標名 (指標式)			H11	H12	H13	H14	目標年度 (H )
	成果 指標	指標 1		副読本配付数	目標	19,406	16,280	16,000
実績			19,406		16,280	16,000	16,000	
活動量 指標	—	—	目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	—	
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	—	

4 予算の執行状況と事業目的との関係

予算執行については、概ね当該事業のために執行されているが、委託料 148 千円については、他事業の予算を執行している。

**【問題点等】**

1 予算執行上の問題点

- (1) 財政課提出「平成 14 年度決算統計節別集計表」の決算額と一致していない。
- (2) 委託料の一部について、他事業の予算を執行している。

2 事務事業執行上の意見等

事務事業評価における成果指標として、副読本配付数を、指標として設定しているが、事業の目的に沿ったより適切な成果指標を、設定するように努める必要がある。

また、その他の指標についても、一部設定されていないものがあるので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。